

豆田の町も春が近づくと何となくにぎわいを見せ始める。今年も天領日田おひなまつりがこの

15日から開催され、ひな祭り発祥の草野本家もそれなりに忙しくなる。平成の大修理と銘打

って始めた重文草

野家住宅の大修理

は仏間棟などが復

元途中なのでまだ

巨大な覆屋があ

る。見物の方々に要

は多少ご不便をお重

かけするが、ひな人形を飾る奥

座敷は昨年暮れに天井の修復が

完了した。

設計監理を担当する文化財建

造物保存技術協会によれば、天

井は大変手の込んだ木工事が施

されていたとのこと。ごく薄い

杉板を丁寧に取り合わせてお

り、他ではあまり見たことがな

い代物だそうだ。元の材を再使用することが大原則なので、大工さんたちは、傷つけたり割ったりしないよう大変に神経を使う解体と復元作業だったようだ。

明治18（1885）年天井板

張替えを致す、との記録があり、

明治の大工さんたちは見事な仕

事をしてくれたよう

だ。今回の修復で現

代の大工さんたちに

もその技術が伝承さ

れたことになり、貴

重な経験となっただ

ろう。



草野 義輔

平成の大修理として6年ほど

前から始まった工事は令和にな

り、来年末には完了するめどが

立った。さすがに6年も続くと、

所有者としては少々工事疲れを

感じていた。だが残り2年を切

り終盤を迎え、もうひと踏ん張

り、と気持ちを新たにしている。

（昭和学園高校理事長・日田市）